

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 29日

事業所名 oleaUEDA

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	40%	40%	20%		現在の職員数でも足りているが、より充実した支援を行うためには増員が必要と思われる
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	60%	40%		現状、バリアフリーを必要とする利用児はいないが、改善は必要であると感じる。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	0%	支援や業務について、職員間で密に話し合い、状況把握に努めている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%	0%		保護者向け評価表は今回が初めての為、結果を真摯に受け止め、業務改善につなげていきたい
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	0%	20%		自己評価の結果を公開するのは事業所として初めて
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	80%	20%		外部評価を受けているか不明。 今回が事業所初めての評価である為、今後は外部評価も積極的に取り入れ質の高い支援・運営を心掛けたい
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%		研修やセミナーの周知を行っている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			アセスメントに基づき職員間で共有を図りながら、計画を作成するようにしている	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			現在使用しているアセスメントツールも状況に応じ常々アップデートを図っている	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			活動プログラムを立案する際は必ず、複数の職員で行うようにし、共通理解を図るようにしている	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			年間で活動プログラムを計画し、計画に沿って実施している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			提供する活動プログラムには必ず、ねらいと評価をつけるようにしている	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			児童それぞれに必要な個別課題の取り組みと集団活動を行うようにしている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	60%		40%		集まらない日がある為、細かいミスが発生している。 全員が支援前に確認できるよう、LINEやTeams等を活用したい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	60%	40%		必要に応じてTeams等に申し送り事項を上げるようにしている。	職員の退勤時間に差が生じており、送迎等の兼ね合いから、当日の振り返りが難しい場合がある。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			記録をする際は、フォーマットを用い検証・改善に必要な情報を必ず記入してもらうようにしている	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			毎日、利用児の状態について協議を行い、現在の支援の方針等の確認を行うようにしている	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	80%	20%		ガイドラインの基本活動を組み合わせ合わせて支援を行っている		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				基本的には児童発達管理責任者が会議に出席している。都合により出席できない場合は、他の担当職員が代行し必ず出席していきたい。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%				送迎時や電話連絡、配布物等にて学校との連携を図っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		60%	40%		現在対象者無	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	60%	40%				情報共有を出来たケースとできないケースがあったため、次年度以降、密に行いたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20%	60%	20%		現在対象者無	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	40%	40%	20%			研修参加の機会が難しい 市からの通達当により、研修へさんかしているが、頻度がまちまちであったり、参加者が固定化されつつある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			100%			地域を巻き込んだイベントができれば。児童クラブ等との交流が現状難しい面がある。事業所にて検討・実施していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20%	60%	20%			通所支援事業所連絡協議会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%					保護者様との密な連絡が図れるよう、公式LINEの運営や、小まめな情報共有に努めている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	40%	20%	40%			本格的なペアレントトレーニングを実施することができていないため次年度より実施して参りたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%					ご契約時に必ず説明するようにしている。また疑問等があれば都度説明するよう対応させていただいている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%					送迎時や電話対応、個別支援計画の説明時に行う場合が多い。今後は悩み相談に対応できる時間をしっかりと設け、実施していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	40%				保護者交流のできるイベントの開催 定期的に親子参加型のイベントを開催しているが、参加される親子が固定化されつつある為、課題は多い
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%					児童や保護者様からの申し出に対しては真摯に受け止め、迅速な対応を心がけている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60%	40%				毎月の療育内容とイベントが掲載されたカレンダーを配布している。
	35	個人情報に十分注意している	100%					専用ファイルを鍵付き書庫にて保管している。 業務上知り得た情報を漏らすことのないよう、雇用契約書に明記、記名押印を頂いている。またSNS等へ載せる際は、事前に保護者からの同意を得ている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%					児童の特性等に応じ、絵カード等を用いるようにし、必要であれば、保護者様とも共有するようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		20%	80%			社人サッカーチームとの交流を兼ねたサッカー教室を月に1度開催している 現状地域に開かれた行事等が行えていないため、積極的に実施して参りたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40%		60%		保護者への周知が不十分に思われる。別紙説明をする等の対応をしていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			月に1度必ず訓練を行うようにしている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			長期休暇前に休業日を設け、虐待研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	40%		60%		保護者への周知がされているか不明。計画に載せる必要があることを再認識したので、今後実施していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%		必要に応じて保護者様より情報提供していただいている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%			今後もヒヤリハット報告書等を上手く活用し事故等ないように努めていきたい。